

久留米大学を受診した患者さんへ

「門脈血栓合併肝硬変患者における難治性腹水への腹腔-静脈シャントの有用性に関する検討」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：平成 24 年 4 月から平成 27 年 12 月
- 2) 受診科：消化器内科
- 3) 対象疾患名：難治性腹水
- 4) 使用する情報：診療情報等

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：内科学講座 消化器内科部門

研究代表者：講師 川口 巧

研究分担者：内科学講座 消化器内科部門 教授 鳥村 拓司

：内科学講座 消化器内科部門 助教 新関 敬

：内科学講座 消化器内科部門 助教 重藤 宏太

：内科学講座 消化器内科部門 助教 國武 泰史

：内科学講座 消化器内科部門 助教 竹田津 英稔

：放射線医学講座 准教授 東南 辰幸

：放射線医学講座 教授 藤本 公則

：放射線医学講座 教授 安陪 等思

2) 研究の意義と目的：栄養治療やお薬の発展により肝硬変患者さんに合併する腹水の治療は進歩しましたが、門脈血栓など著名に門脈圧が著明に亢進する場合などは未だ治療に難渋することもあります。我々は、お腹の中と血管の間に細いチューブでバイパスを作成し、腹水を血管中に直接戻す「腹腔-静脈シャント」を用いて腹水の治療に取り組んでいます。本研究の目的は、門脈血栓合併肝硬変患者さんにおける難治性腹水に対する腹腔-静脈シャントの有効性を検討することです。

3) 研究の方法：腹腔-静脈シャント術を受けた門脈血栓合併肝硬変患者さんの診療情報等を用います。研究にともなう侵襲などはありません。

- 4) 研究期間：平成 28 年 3 月倫理委員会承認後～平成 29 年 3 月 31 日

5) 上記の情報の使用を選定した理由：門脈血栓合併肝硬変に関連する難治性腹水に対する腹腔・静脈シャントの有効性を評価するため

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：研究に扱う情報は個人情報を切り離して、個人が特定されない形で、厳重に扱います。

7) 研究成果の発表の方法：研究結果は、日本内科学会での発表や論文報告をおこなう予定にしています。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

代表者氏名：久留米大学医学部 内科学講座 消化器内科部門 講師 川口 巧

住所：〒830-0011 福岡県久留米市旭町6-7

Tel: 0942-31-7561、Fax: 0942-34-2623